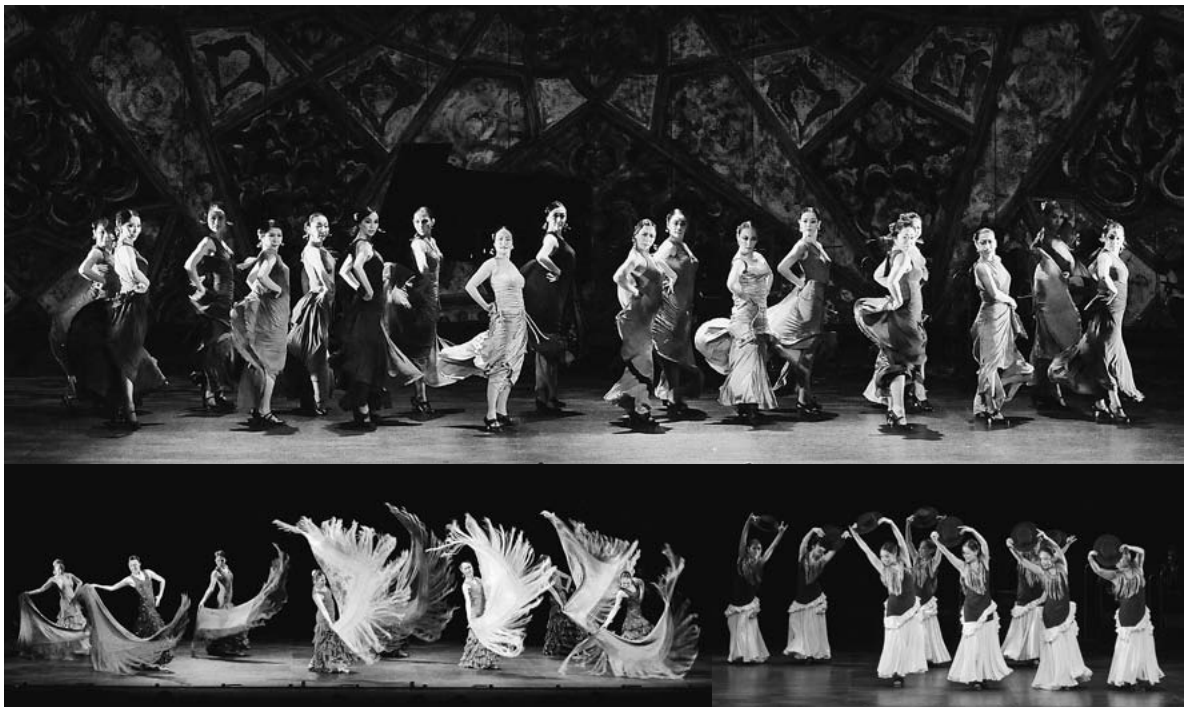




## 財団設立15周年記念 ビエンナーレ公演開催

去る11月25日（金）、東京芸術劇場プレイハウスにて、15周年記念公演「第7回ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバル」が開催されました。



様々な演目を披露したファイナリスト達（上から時計回りにブレリア、ガロティン、バンペーラ）

### ●総勢18名のファイナリストと豪華ゲストが集結！

早いもので、当財団も設立から15周年を迎えることができました。これも、支えてくださった皆様のお蔭と深く感謝しております。

今年度は第9回 CAF フラメンコ・コンクールの開催が既に決まっておりましたが、15周年という節目の年であることを鑑み、急遽、記念公演として、第7回ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバルも開催することが決定。同じ年度にビエンナーレとコンクールを開催した例はこれまでになく、第7回と第8回のコンクール・ファイナリストの方々には、突然のお声かけになってしまったにもかかわらず、第7回優勝の梶山彩沙さん、第8回優勝の里有光子さん、第7・8回準優勝の宝さん、第7回3位（&コンセルバトリオ賞）の正木清香さん、第8回3位のヴォダ

ルツ・クララさんをはじめ、総勢18名のファイナリストの方々にご出演いただくことができました。

スペイン人ゲストには、小物づかいの名手として定評のある舞踊手、マリア・アンヘレス・ガバルドンに加え、新進気鋭のフラメンコ・ピアニストとして活躍するP・リカルド・ミーニョ、ラ・ウニオンを初めとするスペインの主要なコンクールの賞を総なめにし、現代フラメンコ・ギター界の旗手として、数々の舞台の音楽を担当しているアントニオ・レイを招聘いたしました。

当日は、アントニオとリカルドの演奏が興に乗り、当初の予定時間を大幅に超えての熱演となりましたが、こういった即興の妙というのも、フラメンコの醍醐味。その後には登場した、マリアのパリージョを用いた格式高いシギリージャも大変好評を博し、現代スペイン・フラメンコ界のアルテを堪能していただけたのではないかと思います。

## ●ビエンナーレまでの道のり

今回のビエンナーレに出演した方々には、まず7月にダビ・サンチェス指導による5日間の集中レッスンを実施し、その後、夏のワークショップの講師として招いたマリア・アンヘレス・ガバルドンのクラスにも出ていただき、振付けの素地といたしました。

演目にあった、マントンを用いたバンベーラ、コルドベスを使ったガロティンはマリアの振付けによるもので、ワークショップに出た方には、より一層楽しんで観ていただけたのではないかと思います。

出演者の方々はそれぞれ居住地もバラバラで、なかなか全員が揃って練習する機会をつくるのが難しい状況でしたが、出られなかった部分に関しては、出演者同士で積極的に情報交換したり、自主練習をしたりしながら、作り上げてゆきました。ダビ振付けのアレグリアスに至っては、実際に踊るメンバー達で元の振付けをバタ・デ・コーラ用の振りに作り変えるなど、皆さん一丸となって作品づくりに取り組んでくださいました。

こうして一つの舞台を通して横のつながりができたことは、出演者の皆さんにとっても大きな財産となったのではないかと思います。当財団としては、今後もこうした若き才能の後押しに力を注いでいきたいと思いますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



8月に名古屋で開催されたマリア・アンヘレス・ガバルドンのワークショップに参加した皆さん達。

## スペイン研修報告

第8回 CAF フラメンコ・コンクールで優勝、及び準優勝に輝き、スペインでの研修を終えた里有光子さんと宝さんより、レポートが届きました。



里有光子

2016年度後半のヘレスフェスティバルに研修として行ってきました。

フラメンカは皆そうだと思いますが、今まではいつも日々を必死に走り、スペイン滞在中もクラスを取得し、練習、そして公演鑑賞という毎日だったのですが、今回は自分へのご褒美と銘打って、観光客の様に楽しむ！と決めて行ってきました。本当に楽しかった！

フェスティバルの公演の素晴らしさに刺激を受けるのはもちろんでしたが、ヘレスのゆったりとした時間の中で、太陽は止まらずに動いてる事、あ、でもそれは地球が止まらず動いてるって事だ、とか、妙に哲学的になったりして。こういう気持ちでフラメンコを踊ったら、また違う踊りができるんじゃないかなあと、パソや振りではないもっと人間的な部分の洗濯ができたような気がします。こんな贅沢な時間をいただき、MARUWA 財団には心から感謝しています。

今後やってみたい事が沢山あります。観に来て下さる方に楽しんでもらえるような、それでいて私も楽しめる、そんな舞台を創っていきたいです。私らしく、でも初心を忘れずどんどん挑戦し続けて、成長していきます！



宝

2015年6月より1ヶ月間渡西。はじめにマドリッドへ渡り、数日間ダビ・パニアグアヤアルフォンソ・ローサ等のクラスを単発で取り、その後グラナダへ移動し、1週間エバ・ジェルバブエナのセミナー、クルシージョを受けました。

エバのセミナーは普通のクラスと違い、フラメンコについてのフィロソフィーを細かく話し合ったり、実技に関しても、振り付けやパソをひたすらやるというより、身体的な面で、つまり踊りからフラメンコにアプローチするようなクラスの運びでした。体を一つ一つ動かすことについてのフラメンコ的な意味での解釈で、彼女のアルテヤフィロソフィーを感じ、とても貴重な体験でした。

その後、セビージャやマドリッドに戻り、数々のアルティスタのクラスを単発で受け、LIVE やテアトロでの舞台を鑑賞。今回は実技的なものよりもフラメンコの考えを様々な体感しアイデアを膨らました研修でした。

また、帰国後の秋頃に、自身のスタジオが完成しました。今後は、本場で学んだフラメンコを尊重し更に学びを続けつつ、自分の今までの舞台スタイルやオリジナリティーを出しながら新たな表現を追求していきたいです。様々な分野の方々と交流をしつつ、新しい世界を踊りながら見つけていきたいです。

## 平成27年度 助成作品 報告

平成27年度の助成作品を上演された宇根由佳さんと谷淑江さんより、公演のご感想をいただきました。

### 「Corriente ～ながれ～」

宇根 由佳

不思議な縁に導かれるように集った私達。アルテに対して真摯で、厳しくもあたたかいメンバー達と共に過ごした時間は、私にとってかけがえの無い経験となりました。

スペイン、そして日本での打ち合わせを重ね、舞台への期待で胸が躍った初期の段階。そして実際に形が見え出し、期待と共に不安と疑問が襲ってきた中期。更に大きな葛藤が度々繰り返された本番直前。そしてリハーサル中に「私が本当に目指したい事」が突然ひらめき、本番中にそれが確信へ変わった瞬間を実感することが出来ました。

楽しみ、苦しみ、悩み、へこたれ、助けられ、励まし合い、叱咤激励があり、まるで綱渡りのように危うい瞬間もありましたが、おかげ様で、本番は物凄いエネルギーと集中力、皆の底力、そして何かに導かれたかのような、まさに大きな「ながれ」によって、素晴らしい舞台へと昇華しました。

アルティスタの皆さんの懐の深さと湧き上るアイデアを尊敬します。応援、ご協力くださった皆様、そして強力なバックアップとチャンスを与えてくださった MARUWA 財団様へ心からお礼申し上げます。この舞台で見た「大切な事」をこれからの指針とし、新たななる挑戦を続けて行きたいと思います。



(撮影者：加藤 善雄)

### 「美と幻想のスペインⅢ」

谷 淑江



(撮影者：スタッフ・テス株式会社)

初リサイタルの時に助成をいただきました「美と幻想のスペイン」からスタートし、舞踊団の旗揚げから2度目の公演を迎えた今回、これまで進化させながら続けて参りました作品のパート3を集大成として上演いたしました。

タイトル通りの世界観を失わぬ様に、フラメンコ、クラシコ・エスパニョール、スペイン舞踊の魅力が満載のドラマに溢れた舞台作りを目指し、邁進して参りましたが、このたび未熟ながら、素晴らしい仲間、応援して下さる皆様のおかげで無事終了することができました。ヘマ・カバジェロに歌って貰うために、5年前に作詞から始めた思い出深い作品「枯葉」は、3度目の上演にしてやっとヘマさん本人と共演することができ、感慨深い体験となりました。これも財団関係者皆様のお力添えのおかげと心より深く感謝いたしております。また、気持ち新たに日々精進して参ります。本当にありがとうございました。

に日々精進して参ります。本当にありがとうございました。

## 平成28年度 助成作品 報告

平成28年度の助成作品は、末木三四郎さんの「三四郎フラメンコリサイタル『¡¡Ole!! vol.2』」(助成金額：100万円)、エストゥディオ・マドリッドさんの「第31回 岡田昌己スペインを踊る」(助成金額：90万円)、河野睦フラメンコ教室～AZUCENA～さんの「AZUCENA」(助成金額：50万円)の3作品に決定しました。先に公演を終えられた、岡田昌己さんと末木三四郎さんの公演のご感想を以下に掲載させていただきます。

### 「第31回 岡田昌己スペインを踊る」

岡田 昌己

スペイン舞踊家として舞台に立つようになって50数年になります。脚の故障で2年間静養を余儀なくされておりましたが、幸い回復しましたので、本公演に万感の思いを込め、エネルギーに挑戦致しました。

昨年訪れた、昔から有名な銀鉱山のあるラ・ウニオンという町の坑夫の哀史に感じる処があり、彼らが伝えてきたカンテ(唄)の美しさを、創作舞踊劇「タラント・銀山の唄」の演目で上演致しました。カンテの真髄を表すことが出来る招待アーティスト、エスペランサ・フェルナンデスを始め、著名な踊り手、演奏家を招き、新たな作品を世に問いました。

最後に、上演にあたり、貴財団からは多大なご助成を頂き、誠にありがとうございました。



(撮影者：大森 有起)

まずはお忙しい中、観に来てくださったお客様、いつも応援して下さるみなさま、出演者ならびに一緒に舞台に臨んでくださったすべてのみなさま、そして、ご支援してくださったMARUWA財団様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

自身2回目のリサイタルを開催するにあたり、一番初めに考えたことは、「一人の人間の無力さ」です。ソロリサイタルをやることと矛盾するようですが、そうではありません。私にとって、自分を含め、共演する唄手、ギタリスト、パルメーロ（手拍子・掛け声）、スタッフ、観に来ていただいたお客様にいたるまで、全員が主役の舞台、全員が活躍して作り上げる時間、が今回のテーマでした。一人でできることではありません。そして、そのみんなで作り上げる2度とない瞬間こそが、フラメンコの本来の魅力だと、公演が終わった今、確信しています。

生命は何かと出逢い、輝きははじめます。出逢いの輝きに満ち満ちた舞台を目指し、これからも全力で突き進んでいきたいと思えます。



(撮影者：川島 浩之)

## 平成29年度 助成事業 募集案内

### ■助成金

平成29年4月1日～平成30年3月31日迄に完了予定のスペイン舞踊、音楽に関する公演、イベントの企画に対して総額300万円を助成します。

### ■助成対象

芸術活動を続けている個人、或いは団体が主催するスペイン舞踊、音楽に関する芸術の普及、向上につながるような国内公演、イベントの企画で、他機関からの助成を受けていないもの。尚、過去に100万円以上の助成を受けたことがある応募者の助成回数は3回迄とします。

### ■応募方法

応募用紙に上記活動の企画、予算、過去の芸術活動状況等を要約して記入の上、台本、或いはプログラム構成、過去の公演ビデオ又はDVD（10分間）と共に郵送のこと。応募用紙は当財団にご請求ください。また財団ホームページ <http://www.mwf.or.jp/> から入手できます。

### ■応募期間

平成29年1月10日～2月10日必着

### ■選考結果

意欲的で、優れた公演、イベントの企画に対して、財団の選考委員による厳正なる審査結果を平成29年3月31日迄に、本人宛通知致します。尚、助成金支給は公演終了後一ヶ月以内の報告書、写真、印刷物等の提出により実施されます。

### ■問合せ先

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団  
〒105-0014 東京都港区芝 3-16-13  
MARUWA ビル2階  
Tel.03-5419-6513 / Fax.03-5419-6514  
URL <http://www.mwf.or.jp/>  
E-mail [info@mwf.or.jp](mailto:info@mwf.or.jp)

## 第9回 CAF フラメンコ・コンクール

第9回 CAF フラメンココンクールがまもなく開催されます。チケットをご希望の方は、当財団までお申し込み下さい。たくさんの方のご来場、お待ちしております。

### ■予選

2017年2月4日(土)

### ■本選

2017年2月25日(土)

### ■会場

北千住 Theatre1010 (シアターセンジュ)  
※予選・本選共に、同会場

### ■入場料

予選/2,000円(全自由席)

本選/4,000円(全指定席)

### ■チケット取扱・問合せ

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団  
Tel. 03-5419-6513 / Fax. 03-5419-6514  
URL <http://www.mwf.or.jp/>  
E-mail [info@mwf.or.jp](mailto:info@mwf.or.jp)